

花時計

No.23

川村学園女子大学

〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地
Tel.04-7183-0111(代) Fax.04-7183-0115
ホームページ <http://www.kgwu.ac.jp/>



虚心坦懐



Yutaka Okamura

生物は生きて子孫を残すためにその存在の全てを捧げている。人間だけは、或いは、自分だけはその例外であると考えることは非科学的であり、傲慢である。

現実は、人間は他の生物よりも、ほんの僅か幅広い知識と多様な活動の手段を持ったことで優位に立っているに過ぎないのに、人間である自分は特別の存在であると考えがちである。大学教員においては、頭脳労働者として自分の精神活動の成果は特別の意味を持つと考え、自説に固執する傾向がある。例えば、19～20世紀に活躍したドイツの高名な化学者オストヴァルトは、原子を目で見ることができないという口実で、原子の存在を否定し、原子論を抑え込むためにその強大な影響力を行使した。一人の化学者として生きていくために成功裏に形成してきた知識の体系をそのまま維持したいという欲求が、原子論について現実の世界と照らして合理性の検証を行うことを妨げてしまったと考えられる。真理が支配する物理学の世界でさえこの通りであるから、真理の存在すら覚束ない人文・社会の世界では、自分の持っている知識や教える内容を常に現実と照らして検証す

教育学部長 岡村 豊

ることが求められる。これを行わなければ、その人の学識の進歩はないであろう。

教育の世界は更に、教員と学生というセットで物事が成り立っており、教員だけの都合では成り立ち得ない世界である。極論すれば、美しい論理を明晰かつ丁寧に教えても、誰も理解しないのであれば、その者はその限りにおいて教員として失格である。端的に言えば、教えている内容が正しいのだから、それを理解しない学生の方が悪いという発想は捨てなければならない。

昔の学生もそうであったが、現在の学生も興味・関心・能力等は様々であり、その全部の者が十分理解するように教えることは、自分の学生時代を考えても不可能に近い。したがって、授業の内容等について学生からクレームがつくことは教員として恥と考えるべきではない。しかしその場合、教員が自分の正当性を主張することにのみ急で、真摯に受け止めず改善の努力もしないことは、どのような意味でも教育の進歩につながらず教員として不適当な態度である。

虚心坦懐と言うことは易しいが、現実に虚心坦懐であることは難しいと思う此の頃である。

自由テーマ

ハンガリーのクリスマス

ハンガリーの首都、ブダペスト Budapestは「ドナウの真珠」と呼ばれ、ヨーロッパ有数の美しさを誇る町です。ドナウ川が、丘の上に佇むブダBudaと平たく広がったペシュト(と発音) Pestを二分し、両地区を結ぶ最古の橋がくさり橋です。ブダの王宮の丘、ドナウ川、くさり橋のライトアップされた夜景は、一年を通して、幻想的な美しさです。



幼児教育学科 教授 尾見敦子

くさり橋から歩いてほどなく、ヨーロッパ大陸初の地下鉄の始発駅があるヴュルシュマルティ広場。ここにも12月に入るとクリスマスの市が立ちました。冬の夜は寒くて長く、4時には日が暮れます。名物の温かい赤葡萄酒の体の温まること! 私はクリスマスにちなんだ素朴な民芸品や蠟燭、嚴冬に備えて暖かい皮の帽子と手袋を求めました。家路までは、オペラ座のあるアンドラーシ通りの淡いオレンジの、下宿のあるナジメズー通りの紫の美しいイルミネーションを鑑賞。街に商業主義的な音楽の騒音がないのが心地よかったです。

ELTE(研修先)の付属幼稚園には民族音楽のプロがやってきて、歌に踊りに楽しいひとときでした。コダーイ・ゾル

ターン音楽小学校の3-4年生の合唱団は学校の近くの教会で、6-8年生とギムナジウム(9-12年生)の合唱団は、ブダの丘のマーチャーシュ教会(13世紀に建立)でクリスマスコンサート。素晴らしい音響空間に自然で清楚な美しいアカペラ合唱が響き、とても感動しました。翌週、生徒たちは近くの幼稚園に訪問演奏し、3年生はキリストの降誕の音楽劇を披露(写真)。私自身も、ELTE女声合唱団(国立美術館)、ジュネス混声合唱団(リスト音楽大学大ホール:コダーイ生誕記念コンサート)など、本番に追われる日々でした。ハンガリーのクリスマスは12月25、26日。両日ミサに参加し、人々の生活にねぎした本物のクリスマスを味わうことができました。

イギリスのクリスマス

本で読んで知っていることと、それを実際に見たり体験したりすることとの間には、やはり大きな隔たりがあるのだなとつくづく感じます。2006年度に機会をいただいた一年間のオックスフォード生活は、小さな気付きの連続でした。例えば日本でもおなじみのクリスマス。12月になると、それまでなんのへんてつもなかった肉屋に「毛皮・羽根付き、お頭つき」の大小の鳥獣肉がびっしりと吊り下げられ、異様な光景でした。異様だと思ってしまうのは、食べるようにな

新任教員



今井 邦枝

幼児教育学科
准教授

平成19年9月1日採用

70歳を超えた長寿大学生との交流

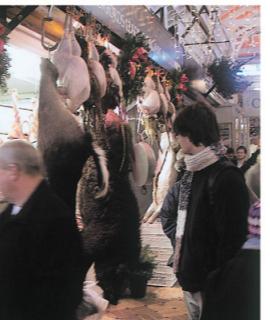


我孫子市公民館が主催している「我孫子市長寿大学」の方々と社会教育学科の学生との交流会を、平成19年6月11日に本学で行った。この長寿大学は、市内在住の65歳以上の方々を対象にして「高齢者がより充実した生活を送るために、人間関係を深めつつ地域の課題や社会の変化に対応した知識を学び、まちづくり等に積極的に参加できるような学習の機会を提供する」という目的のもとに30数年前から開催され、期間は4年間となっている。

史学科 准教授 金澤周作

ったとはいえたしがまだ「肉食の文化」を深いところでは受け入れていなければなりません(逆に、魚食が相対的に増えているといえイギリスには「新鮮さへのフェティッシュ」《あるTV番組での日本評》はないようです)。さて、本にはクリスマスになるとすべての店が閉まってしまうと書いてありました。ですが蓋を開けてみると、セインズベリーやテスコといった巨大スーパーは朝から晩まで営業していました。日欧それぞれの文化の展開と両者の混交に加え、

グローバル化もまた現代世界をいろどり、本の知識を追い越しています。そして、5年後のイギリスのクリスマスはきっと、わたしの体験をも追い越しているでしょう。



保育内容「言葉」「表現」などを担当しています。子どもの姿をしっかり捉えることを重点に置き、実践に結びつく授業にしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

社会教育学科 教授 斎藤哲郎

長寿大学生の平均年齢は70.4歳(3年生37名)、気力・体力・学習意欲は高く、初めの頃は女子大生(23名)も少々押され気味であったが、ガイダンスの後7グループに分かれての話し合いで、あちこちから笑いの声が聞かれるようになった。

1時間少々のわずかな時間ではあったが、女子大生からは「あっという間に時間が終わってしまった。もっとたくさんのこと話をしたかった」「長寿大学の方々は生き生きとして目が輝き、生涯学んでいくことがこんなにも充実した人生になるのかと思った」「戦争のこと、環境問題、食糧やエネルギー問題」「大学生活という自由な時間を多く持てるこの時期が、とても貴重なものであることが分かった」などの感想が聞かれ、大きな刺激をもらったようである。長寿大学コーラス部のお礼の合唱もまた、すばらしいものであった。

小中学校教育補助ボランティアレポート

●百聞は一見に如かず ~教師の在り方~

日本文化学科3年 高橋江梨

私が学校ボランティアを志望した理由は、教育実習に行く前に、少しでも教育現場に慣れておきたいと思ったからである。

そして現在、「百聞は一見に如かず」を実感している。個性重視の教育の影響か、じつに個性豊かな子どもたちが多い。それは性格や特技のみではない。クラスに1~2人はハーフの子がいて当たり前という国際結婚の増加も、個性の豊かさを顕著にしている理由である。4年次に行う実習先の高校でも、同様の傾向はあるのであろうか。

まだ数回はあるが、ボランティアを通して感じたことは、教師は「経験」が物を言うということである。学習指導力・学級経営力・生徒とのコミュニケーション能力などは、現場での経験を通して培われていくものであろう。そしてなにより、それ



らを取得しようとする教師自身の努力が必要不可欠なのである。

この先も、ボランティアを通して教師の在り方をしっかりと学んでいきたいと思う。

●学校ボランティア

日本文化学科3年 高林沙也佳

私は、湖北台東小学校へボランティアを行っています。授業の補助や、放課後の学習支援をしています。2学期の始業式では、全校生徒に紹介していただきました。

初めは、どうやって子ども達とコミュニケーションを取ろうかと考えていたのですが、掃除と一緒にを行うと、すっかり仲良くなることができました。授業中に「先生」と呼んで質問してくれる子がいたり、授業の後に似顔絵を描いてくれた子もいました。

最初は不安だけでしたが、今では子ども達と過ごすことが楽しみになりました。小学校の先生方も、色々な話をしてくださるので、とても勉強になります。

今後もボランティアを続けて、多くの子ども達と仲良くなつて、一緒に勉強したり、遊んだりしたいです。そして、この経験を来年の教育実習に生かしていきたいと思っています。

千葉県通学合宿ボランティア養成講座に学生たちが発表

社会教育学科 教授 斎藤哲郎



事例発表「通学合宿に参加して」のテーマで発表する浅川くるみさんたち

千葉県教育委員会主催「通学合宿ボランティア養成講座」が、平成19年10月

27日に本学5106教室で開催された。通学合宿は、子どもたちの自立心、社会性、協調性などの育成を目指して公民館などに寝泊まりしながら通学するもので、今年度、千葉県内で34箇所において実施されている。

今回の研修会は、東葛地域を中心として教育委員会職員や協力した学生や地域ボランティアの人たちを対象に行われ、県内から32名の参加者があった。午前10時から午後4時までの長時間に渡って話し合いが行われ、特に、プログラ

ムの開発、ボランティアと子どもの関わり方、広報活動の進め方などについて活発な議論がかわされた。

午前中は、講義「通学合宿とボランティアとしての関わり方」(斎藤哲郎担当)と、流山市“めだかの学校”(平成19年10月8~11日:3泊4日)に参加した社会教育学科の学生(浅川くるみ、阪本真美、遠藤梨恵、東千香子の4名)たちによる実践発表が行われた。

午後は、参加者を5グループに分けてのワークショップが行われ、そのコーディネーターを本学の大学院生や学生が努めた。



●プラスバンド部

私達プラスバンド部は、現在22名の少人数ではありますが、学内や地域のイベントでの演奏を中心に楽しく活動しています。

今年は10月6日の天王台まつりにも出演させて頂きました。

これからも聴いて下さる方に楽しんで頂ける様な演奏を目指して活動していきたいと思います。

●スキー部

スキー部は、冬だけでなく1年を通じて活動しています。シーズンオフはオンラインスキー(ローラーブレード)などでトレーニングをしています。そして冬には楽しい合宿があり、みんなで滑りに行きます。

元全日本で活躍したコーチの方に指導して頂いているので技術も高まりとても楽しいです。

目標は、3月に行われる全国学生岩岳大会で良い成績を残す事と、スキーで級を取得する事です。

クラブ活動報告

鶴雅祭レポート

第19回鶴雅祭を終えて

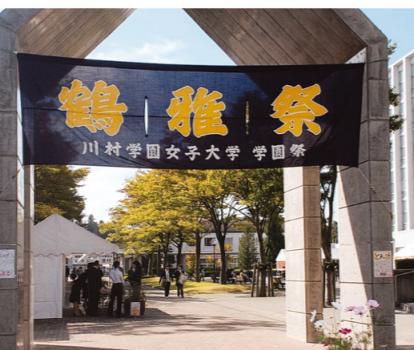
学園祭実行委員長 心理学科3年 古屋聰美

今年の鶴雅祭は、10月20・21日に開催されました。テーマは、爽やかで健やかな女性でありたいという思いから「爽健美女」。

今年は、両日とも天候に恵まれ、キャンパス内には学生たちの活気があふれています。21日には、平岡祐太さんを迎えたトークショーを開催しました。来場者は、両日をあわせて3150名余を迎え、大盛況のうちに終えることが出来ました。

後輩達にも今年の経験を生かし、さらに充実した鶴雅祭になるように期待しています。

最後になりましたが、実行委員会を代表して、鶴雅祭を成功へと導いてくださった皆様に厚くお礼申し上げます。



国際英語学科

史学科

心理学科



情報コミュニケーション学科



社会教育学科



幼児教育学科



日本文化学科



観光文化学科



生活文化学科

文 学 部

国際英語学科

今年で12回目となるスピーチコンテスト。レシテーション部門も含めて、大学生15名、高校生9名が参加しました。今回初めて、英訳コンテストも実施し、その表彰式も行いました。対象作品『精霊の守り人』の作者である本学の上橋菜穂子先生がブレンデーターとして来てくださいました。

史学科

焼き餅とワッフルを浪漫喫茶でだしました。はいからさんなどの衣装を着て、竹久夢二や大正時代をモチーフにした壁絵やインテ

リアにこりました。多くのお客様に大正ロマンの雰囲気を楽しんでいただけました。

心理学科

初日は父母懇談会の後、プレイルームで、2名の卒業生を招いて、現在の仕事について語ってもらう会が催されました。在学生をはじめ、ご父母の方も多数参加されました。在学生によるパワーポイントを使っての研究発表や卒業生による絵本の読み聞かせ、グループワークなどを体験しました。

2日目は箱庭療法や能面テストの体験コーナーを設けました。

教 育 学 部

情報コミュニケーション学科

KICS（学科内に学生が作った情報とコミュニケーションについて勉強などをする会）のメンバーを中心として懐かしの駄菓子屋を開いたり、デジカメで撮った写真を小さな缶バッヂにしたり、簡単なロボット制御のLEGOの実演やヨーヨー釣りを行いました。

社会教育学科 ~テーマは、ハロウィン~ 昨年の実行委員である2年生を中心に、新たに1年生も加わって主体的に企画・運営しました。当日は、手作りレクリエーションや高齢者・障がい者の疑似体験のコー

ナー、介護用車椅子や介護ベッド、学科の紹介やアンモナイトの展示を通して社会教育・福祉教育にふれてもらいました。

幼児教育学科

テーマは「心と体を育む伝承の子育て文化」。保育実習室に、お手玉、あやとり、折り紙、けん玉、めんこ、ペーコマ、缶ぼっこりを体験できるコーナーが勢揃い。60人を超える沢山の子どもたち、親子連れで賑わいました。子どもたちは好きな遊びに夢中。分かりやすく教えるのはとても良い経験でした。

日本文化学科

日本文化実技授業での日本舞踊を学ぶ仲間たちは、藤娘や踊りの基本の所作などを今年新調した衣装で披露。さらに一年生中心に行う恒例の模擬店の茶のみ処「月見」は室内装飾も良く、さらに初めての和風ストラップなど手づくり雑貨店も丁寧なつくりとその安い価格が好評でした。

観光文化学科

地域研究・日本、ヨーロッパ、アジアとホスピタリティ産業論の4つのゼミが研究成果の展示発表を行いました。

人間文化学部

また「マンゴー・パラダイス」(ホスピタリティ産業論ゼミ)ではマンゴーパフェやマンゴージュースなどの販売を行いました。

生活文化学科

Hey!Nixは、メルヘンの世界をモチーフに主人公をイメージしたドレスを作りました。オリジナルMAKINGはクリスマスグッズを展示即売しました。学科展ではサンドプラストの体験やチベットの風景・アジアの家族の写真展、消費生活相談員の模擬テストを行いました。学友会主催のカレーとナンは美味しいと評判でした。

キャンパスから

女性学研究所シンポジウム報告

女性学研究所・所長 内海崎貴子

2007年10月20日（土）、14:00～16:00、12号館A会議室において女性学研究所の公開シンポジウム「ワーク・ライフ・バランスを考えるー仕事・子育て・ボランティアー」が開催されました。参加者は25名で、その内訳は地域で男女共同参画に関わる一般市民、自治体の男女共同参画担当職員や学部学生・大学院生などさまざまでした。

シンポジウムでは、まず、生活文化学科の柚木理子先生が「ワークとライフのはざまには」というタイトルで、労働社

会学の立場から仕事と生活の調和が政策としてなされることの意味とその社会的背景について、ドイツでの研究成果を交えながら報告されました。次に、幼児教育学科の野尻裕子先生が「保育サービスの充実と親の育ち」というタイトルで、幼児教育学の立場から家庭外サービスである保育の充実化が親としての育ちを疎外する問題について、実際の保育現場で起きている事例を取り上げながら報告されました。最後は、史学科の金澤周作先生が「ボランティアのボテンシャルーイ

英の歴史からー」というタイトルで、イギリス史の立場から地域活動を担うボランティアのボテンシャルについて、日英を比較しながら日本のボランティアの課題と可能性を報告されました。

休憩後、会場からの質問と参加者との討論が活発に進められました。参加者からは、「ワーク・ライフ・バランスが男女共同参画社会の形成と少子化解消の特効薬ではないことが分かりました」などの感想が寄せられました。

生活文化学科の2007年ハロウィーン



生活文化学科1年生より4年生までの親睦を深める趣向のハロウィーンパーティーが11月2日、目白校舎の地下でありました。学友会が企画し、教室は約130名の学生の歓声に溢れ、仮装した学友会実行委員がbingoゲームで数字を出す遊びに盛り上りました。



新学科と新校舎の紹介

2008年4月、新学科と新校舎が誕生します。新校舎は4階建で、1階が食堂、2階がラウンジ、乳児保育室、ピアノ練習室、3階が理科室、図工室、家庭科室、食品化学実験室、大講義室、4階が食品加工実習室、調理実習室などとなっています。また、我孫子キャンパスに、来年度より、児童教育学科と生活文化学科の新入生を迎えます。活気に満ちた学園生活が始まります。



我孫子市民大学開放講座

今年のメインテーマ「豊かな人生を求めて」

A 9/22 (土)	謡曲『山姥』とカナダ人俳優（使用言語：日本語）	国際英語学科	准教授 ウィリアム・キスチャック
B 9/29 (土)	文学作品を楽しく読もう！	日本文化学科	准教授 安川里香子
C 10/13 (土)	チャリティ大国イギリスの市民生活とボランティア	史学科	准教授 金澤周作
D 10/20 (土)	食生活で目指す健康寿命	生活文化学科	准教授 大坂佳保里
E 10/27 (土)	診察室でみたお母さんー問題の受け止めと対応ー	心理学科	准教授 渡邊昭彦
F 11/10 (土)	ストレスとメンタル・ヘルス	社会教育学科	教 授 西川将巳
G 11/17 (土)	夫婦協同の子育ては人生の喜び	幼児教育学科	教 授 尾見敦子

上記の内容で、無事終了しました。ありがとうございました。

日本橋界隈の美術館と珍しい博物館／史料館

日本文化学科 教授 萩原 延元

日本橋周辺を描いた浮世絵といえば、初代歌川広重の東海道五十三次之内の日本橋朝之景がよく知られています。それは早晩に出立した大行列が日本橋を渡ってくると、魚河岸に来た天秤棒を担ぐ魚屋さん達と大までもが道をあけている情景が描かれている一枚。同じく広重にもある富士三十六景の東都駿河町では、江戸唯一の呉服店ゑちごやの店主を三河万歳ら幾人の芸人が、賑やかに行き交う江戸の正月風景を描いたもの等があります。特に日本橋とその周辺には、ますます車と人が行き交う東京の商業の中心地として、今も変わらずに栄えています。

今回はこの日本橋から歩いても東西南北約500m以内にある美術館と珍しい博物館・史料館をご案内します。先ずこの橋に近い三越本店です。本館6階美術フロアには4つの画廊、7階の特別展示催場では春の院展や日本伝統工芸展などの美術展が毎年開催されていて人気があり、さらに新館の7階にもギャラリーがあります。さて三越ライオン正面口を神田方向に向かうと、超高層ビルとなった新三井本館があります。1階右はフルーツパーカーの千疋屋、その1階アトリュームには三井記念美術館の入り口があります。美術館は旧三井本館内にあり、その重厚な天井や壁面のマホガニーの深い色調に誰もが驚嘆する事でしょう。館蔵品数は円山応挙の雪松図屏風や藤原定家の書蹟などの国宝6点、重要文化財を含む3700点を所蔵。

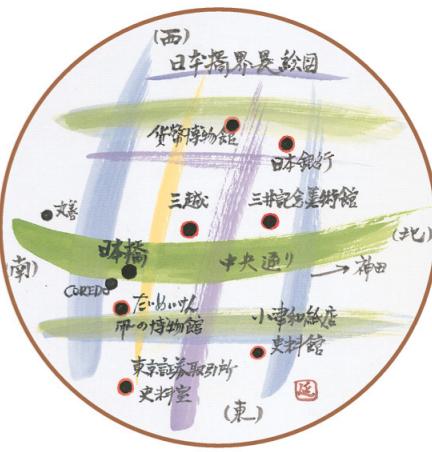


とくに円山派の日本画と三井家の茶道具が数多く、四季折々の特別展も好評です。

三井本館ビルの後ろは日本銀行。ここはもと江戸時代には金座があったところ。明治後期創建の日銀正面の紋章を見ると、西欧にならってのむかい獅子がなんと千両箱に足をのせて妙に可愛らしい。日銀館内見学は予約をすれば可能で、特にお勧めは道をひとつ隔てた本石町にある貨幣博物館です。ここでは日本の貨幣の歴史はもちろん、なんと疑似体験で大判小判や一億円の模造紙幣を手にする事も出来ます。

さて日本橋に戻り銀座方面へ向かえば、元東急百貨店の場所に帆掛け舟のイメージで建つガラス張りのCOREDO日本橋があります。このビルの角を左に曲がり100mほど進めば、ビル横にレストランのたいめいけんがあります。ここの先代主人が全国各地に旅して収集した様々ななつかたちの楓のコレクションが実に楽しく、同ビル6階には小規模ながら楓の博物館があります。楓の銀座と呼ばれるのが東海地方で、当然とはいえ楓の強い地域である事もここで知りました。浜松辺りでは各町内が競って大楓を浜辺で揚げるそうで、楓揚げはより人の和が大切となります。

次に近くの昭和通りの長い歩道橋を渡ると日本橋郵便局があります。ここは日本で初めての郵便局があった場所の碑文があります。この周辺は日本のウォール街ともよばれる兜町で、東京証券取引所の新しいビルがこの町の中心にあります。1階には東証プラザ証券史料ホールがあり、明治11年創立以来の株式・証券の歴史を知ることができます。展示の株券をよくよく見ると其々の会社の思いが込められた図が細やか



に描かれ、例えば鉄道会社の株券はその下方に汽車が、三井三菱などの大企業であればその堂々として石造建築の本社が描かれています。おわりは兜町隣りの日本橋本町3丁目付近の高速道路そばにある、江戸の承応2年にはじまる伊勢松坂の和紙の大店小津和紙です。その2階の小津史料館は特に和紙に興味がある人には是非一度訪ねてみることを薦めます。

出版活動

社会教育学科 教授 岩村 豊

『日本の教育』

- 2007年9月発行 ●A5判534ページ
- 4500円（税別）玉川大学出版部

日本の教育システムの実際の姿を、その課題も含めて分かり易く整理して示す。教育関係者のみならず法曹や行政の専門家にも有用であるとともに、専門用語を極力避ける等の配慮により教育問題を真剣に考えたいという者にも役に立つ。

若桑みどり先生を偲んで



若桑先生は本当に学生を愛する先生だった。「生活破綻」してまでも、打っても響かない学生に、打たら少しは響き出した学生に少しでも良い卒論を書かせたいとエネルギーを費やした。「私たちは学生が見つけてきたユニークな研究の『オリーブの枝』を育てていかなければならない」、ノアの箱舟の逸話を引きながら語っていた。

川村学園女子大学のジェンダー研究に貢献したのは言うまでもない。まさにジェンダー問題に直面している女子大生にそれを乗り越える術を、そして自力で立ち上がる力を与えていくこと、「ジェンダーに偏差値はない」これが私たちの合い言葉だった。合わせて、当初バーチャルで立ち上がった女性学研究所に、国際シンポジウムや学内研究会の開催、『女性学年報』の発行と実績を積み重ね、確固たるものに育ててきた。

本学で約5年間、短い間だったが、同僚として御一緒できたことを心より感謝している。御冥福をお祈りいたします。

生活文化学科 准教授 柚木理子

「卒業生は今」
原稿募集のお知らせ

「花時計」は、大学での今をお伝えするために学内ばかりではなく、卒業生にもお送りしています。「卒業生は今」のコーナーでは、皆さんからのひとこと（200～300字程度）をお待ちしています。卒業年と学科を必ずお書き添えの上、郵送若しくは下記メールアドレスにお送り下さい。採用分には大学名入りの図書カードをさしあげます。

原稿宛先 川村学園女子大学広報委員会 メールアドレス：hanadokei@kgwu.ac.jp

卒業生は今

MAILBOX

依田 雪絵

英語英文学科（現国際英語学科）
1992年卒



大学を卒業してから数年後、イタリアへ語学留学した。その後イタリア語を使った仕事がしたくて右往左往していた時期もあったが、運よく、数年前に通訳の仕事を手にした。それからわざわざながらイタリア語の通訳をやらせていただいている。自分の専門分野を大好きなワインにしようと決め、「ぶどうのバッチ（ワインの試験に合格した資格保持者のみが手にすることが出来る）」をつけてワイン関連の通訳をやりたいと目標を立てた。そして今年、某百貨店の仕事でイタリアのワイナリーから生産者が来日した際、数年前に手にしたバッチをつけて通訳を担当することが出来た。夢が叶った。通訳の仕事は駆け出しだ。沢山仕事があるわけではない。だから今はワインの販売をしつつ、知識や人脈を広げ、仕事を手にできるように自分をアピールしている。もう長いこと社会人をやっているけれど、未だに勉強と戦いの日々だ。自分を満足させる仕事をするために、イタリア語とワインの世界の2本柱で戦い続けている。この年齢になんでもやりたい仕事や目標がある自分を幸せだと思いながら。

白熊 美幸

史学科 2006年卒



大学を卒業後、大学時代から勉強を始めていた韓国語をマスターするため、韓国留学を決意した。大学の語学コースで勉強を始めたが、思ったより言葉が通じない。授業にもついていけず、韓国語の勉強に必死になった。

文化の違いにも驚かされた。日本と違い、車優先社会。信号が赤でも、かまわず突っ込んでくる。コンビニも明かりが点いているのに鍵がかかり、人がいない。

一番嫌だったことは「あなた日本人？」行く先々で聞かれる。いいかげんにしてほしい。小さな子供にも「日本人嫌い」と言われた事がある。未だに日本人が出入りできない店も存在する。日本人だから、ぼったくりに遭ったこともある。とても悲しい事だった。

現在は語学力も伸び、生活には困らない程度になり、ワーキングホリデー・ビザに変更した。将来は韓国語を生かした職につきたいと思う。今の目標は、韓国語能力試験の最上級合格である。頑張るぞ～!!

箱守 基予子

大学院心理学専攻 2006年修了



私は、現在、松戸クリニック分室にて、心理士として勤務させていただいている。そこで主な仕事は、育て方に配慮の必要な、発達の偏りや遅さが見られる子どもたちへの個別療育と親御さんのサポートです。

まだまだ判断・対応に自信はありませんが、子どもの気持ちや状況を正しく理解して、親御さんへお伝えできるようになることが、今の目標です。そのため、日々学んでいる所です。

在学中は、臨床心理学を専攻しました。自分の学びたいことを学べた2年間は、とても貴重で、苦労しつつも楽しい時間でした。そして、いろいろな方々にお世話になって、今の私があります。これからはかわいい子どもたちと一緒に楽しく学んでいこうと思います。

柏木 麻依

情報コミュニケーション学科 2006年卒



人を喜ばせる仕事がしたい。いつの間にかそう思っていました。大学3年生の時にずっと夢だったカナダへの語学留学を決め、一年間の留学生活を経て私は希望だったホテルへ就職する事ができました。外国人のお客様が7割以上を占める職場で、私は一日中パソコンと向き合って接客を行っています。日々の業務の中で、大学生活で学んだパソコン知識が実践的に役立っており、今では私にとってかけがえのないものとなっています。

金子 香苗

社会教育学科 1995年卒



大学を卒業してすぐに一般企業に就職しましたが、教師になりたいという気持ちが捨てきれず、会社を辞めて中学校社会科の臨時教師をしながら通信教育による小学校教員免許所得のための勉強を続けました。念願がかなって、8年前に小学校教員として正式に勤務することができ、現在、埼玉県川口市立戸塚南小学校に勤務しています。

ご存じのとおり教育が大変難しくなってきました。日々勉強の毎日ですし、研究し続けると児童について行けないのが現状です。息切れしないように、日々仕事もプライベートもリフレッシュを心がけているところです。

平井 みき

幼稚教育学科 2007年卒



卒業後、幼稚園に就職し、3歳児の担任をしています。初めの頃は、期待よりも戸惑いや不安の方が大きく感じましたが、良き先輩方や保護者の方々に支えられながら、充実した日々を過ごしています。どんなに疲れていたとしても、子どもから「みき先生だいすき！」と言われると、力が湧いてきます。私にとって、子どもの言葉は魔法の言葉です。まだまだ未熟者ですが、毎日たくさんのものを吸収し、子ども達とともに成長していきたいと思います。

松本 真樹

日本文化学科 2005年卒



卒業してから3年近く経ちました。今年の4月からクリニックで働きながら、『医療事務』の資格取得を目指しています。クリニックでの主な業務は、受付業務・会計業務・患者応対、他にもレントゲンの現像・尿検査の記録取り・カルテの整

理など、細かい仕事がたくさんあります。また投薬料・検査料などの診療費を計算します。

来院する患者さんの顔ぶれがほとんど変わらないので、最近は、顔見知りになった患者さんといろんな話ををするようになりました。常に笑顔で、自分が病院に行った気持ちになって、ここなら安心だな、と思って頂けるような接し方を心がけています。

南 綾美

観光文化学科 2006年卒



私は現在、JTB首都圏メディア販売事業部に勤務しています。旅行会社には、お店に来ていただいたお客様にパンフレットの商品（ツアーなど）を販売するという他に、新聞やネットで宣伝をする通信販売の商品もあります。JTB社は、“旅物語”という通信販売専門の商品を取り扱っていますが、私はそのヨーロッパの手配を担当しています。

私たちの事業部は、ツアー企画・手配・電話販売まで全てワンフロアでおこなっているため、ツアー企画担当者をはじめ様々な分野の人たちとも気軽に話すことが出来る職場です。私が担当している手配の仕事は、飛行機やホテルの手配の他に、現地の情報を早く収集してそれをお客様にお知らせすることも含まれます。旅行の安全に係わる情報もあったりで、大切な仕事だと思っています。

でもこの仕事の魅力は、やっぱり研修旅行でヨーロッパに行けること！かな？って思います。

伊藤 利恵

生活文化学科 2006年卒



私は、平成18年4月から開園した川村学園女子大学附属保育園の施設栄養士として働いています。午前中は子どもたちの給食作り、午後は献立のチェックや給食だよりの作成などの事務が主な仕事です。調理がうまくいかないこともったり、偏食の問題や食育の課題などに向き合い、大変なこともあります。子どもたちからの「おいしい！」という言葉で日々、頑張ることができます。また、現在は管理栄養士の資格取得を目指し勉強をしているところでもあります。

編集後記

- 大学という場所は、本当に多彩なスタッフと学生で構成されていて、日々変化を続けていくのですね。そのことを実感できる内容になりました。(S.K.)
- 皆様のご協力で、すばらしい「花時計no.23」ができました。学園の今が文字通りわかる紙面になっているかと思います。(H.M.)
- 編集に携わり、「花時計」は、本学のタテ糸(卒業生と在学生)とヨコ糸(9学科、教職員)の織りなす一枚の「作品」であると感じました。(O.A.)
- 花時計の編集が学生のさまざまな活動を知る機会ともなっています。(K.T.)